

英 語 科

• 調査結果と考察 -----	138
• 学習指導改善のために -----	146
• 問題構成表 -----	157
• 調査問題と正答率 -----	158
• 採点基準及び個別応答票記入上の手引き -----	165
• 応答状況一覧表 -----	168

英語科の調査結果と考察

1 出題のねらいと出題内容

英語の基礎的・基本的な力をみるため、学習指導要領に基づき、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4領域について出題した。その際、観点別学習状況の実現状況を把握するため、「表現の能力」、「理解の能力」、「言語や文化に対する知識・理解」の三つの観点から、また過去の学習の実現状況と比較するため、過去に出題したものと同一あるいは類似の問題を多く出題することとした。

さらに、生徒の英語への関心・意欲・態度を把握するため、意識調査も実施した。

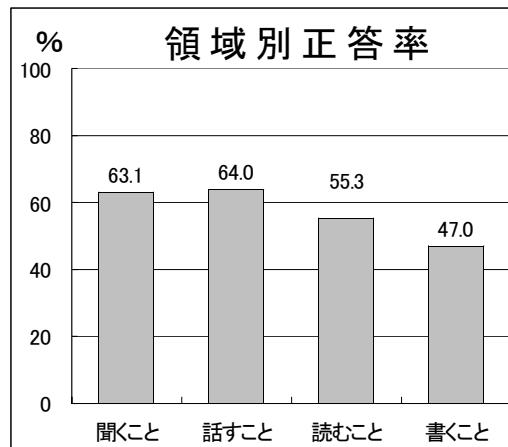
2 調査結果と考察

(1) 領域別応答状況

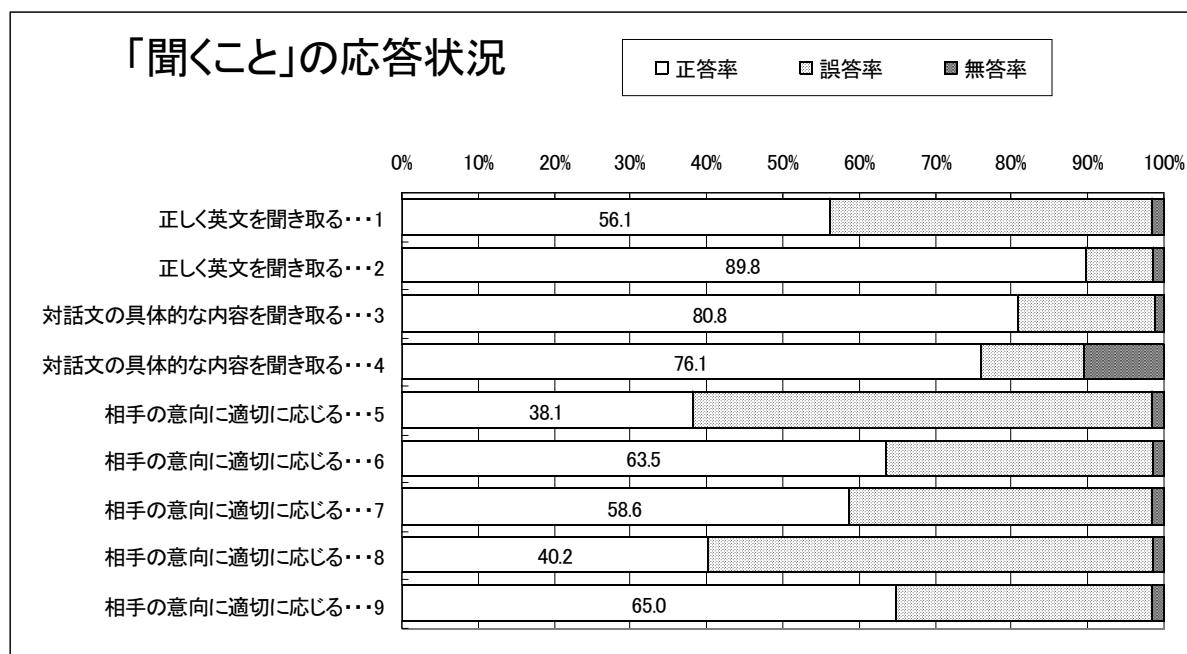
右のグラフは、領域別の正答率を示したものである。このグラフから、「聞くこと」や「話すこと」の領域の正答率が高いことが分かる。これは、学習指導要領（外国語科）に基づいて、各学校で「聞くこと」や「話すこと」など音声を重視した指導がよく行われている成果と考えられる。

一方、「読むこと」や「書くこと」の正答率は低くなっている。「読むこと」や「書くこと」の活動を授業に計画的に位置付け、実践していくことが必要と思われる。

次に、各問題の応答状況を詳しくみていくことにする。



① 「聞くこと」の領域



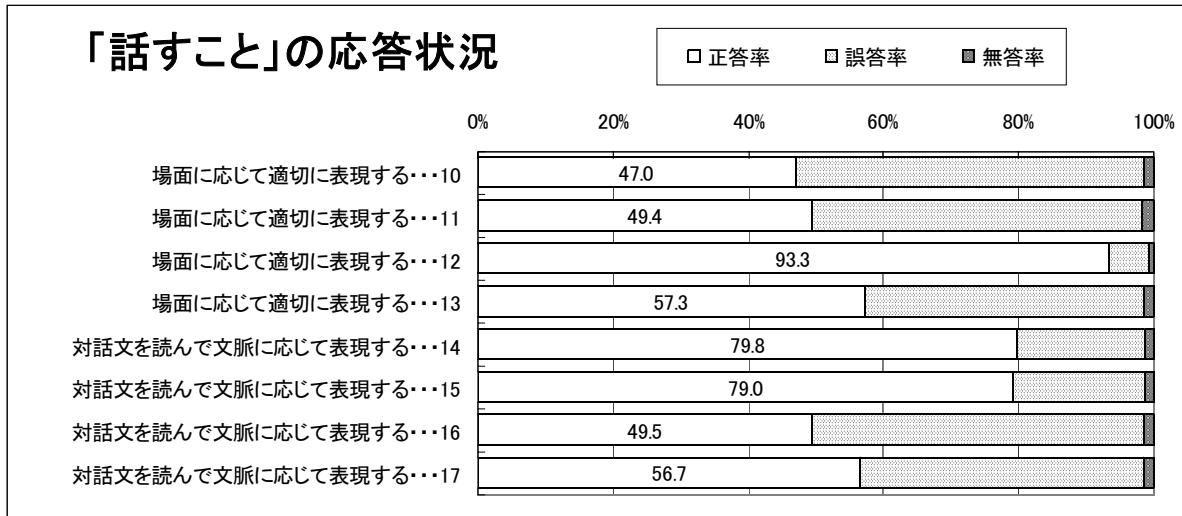
※グラフ中の「…1」は、調査問題の通し番号①を表す。

「正しく英文を聞き取る」能力をみる問題は、示された絵の内容を正しく表している英文を選択する問題である。問題①は、比較級の文を聞き取って答える問題であるが、正答率は56.1%にとどまった。

「対話文の具体的な内容を聞き取る」能力をみる問題③、④は、まとまりのある英文を聞いてその内容に合う日本語を書く問題であり、正答率はそれぞれ80.8%，76.1%と、いずれも高かった。特に、問題④は、相手の「音楽が好きだ」という言葉に対して、ケイタが言った"Me too."という英文を理解して答える問題であり、同意を表す表現がほぼ理解されていると考えられる。

「相手の意向に適切に応じる」能力をみる問題では、問題⑤、⑧の正答率がそれぞれ38.1%，40.2%と低かった。問題⑤は、3人の年齢を聞き取り、「いちばん年上はだれか」という最上級の質問に答える問題である。比較級や最上級の表現については、第2学年の2学期に初出となることが多く、学んだ内容がまだ十分に定着していないと思われる。そのため、今後も繰り返しそれらの表現に触れさせ、習熟を図っていく必要がある。問題⑧は、不定詞の副詞的用法を用いた文を聞き取ることができるかがポイントとなる。キーとなる英文は、"Last Sunday Yoshio went to school to play tennis."であり、質問の文は、"Did Yoshio play tennis in the park?"である。例えば、英文が"Last Sunday Yoshio played tennis at school."であれば正答率はもっと高くなつたと推測される。しかし、今回のような不定詞の文では、場所を表す語句が文の途中にあるため、聞き逃してしまった生徒が多くいたと思われる。このことから、表現方法は異なるが同じ意味を表す文に数多く触れさせ、慣れさせていく必要があると考える。また、質問の文は「Didで始まる過去形の疑問文」であったにもかかわらず、"Yes, he does."や"No, he doesn't."を答えとして選択した誤答が52.2%と高く、基本的事項の定着を図るために繰り返し指導が重要であると思われる。

② 「話すこと」の領域

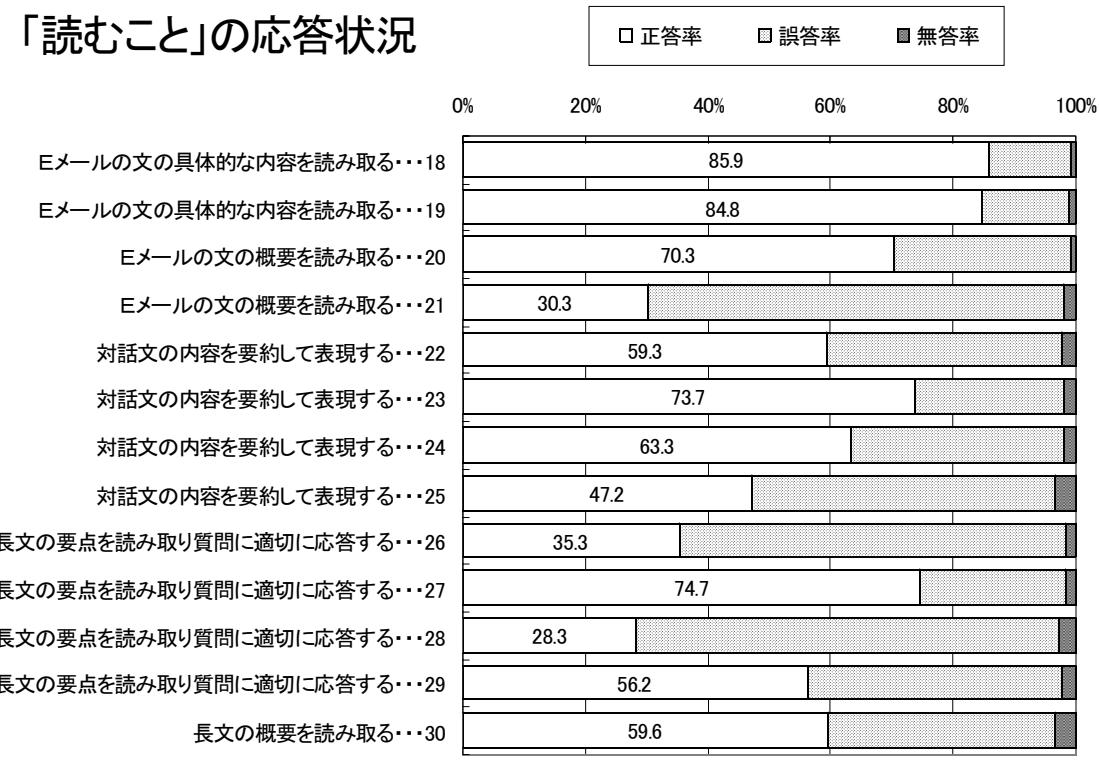


「場面に応じて適切に表現する」能力をみる問題では、問題⑩、⑪の正答率がそれぞれ47.0%，49.4%と低くなっている。問題⑩はものを借りる場面、問題⑪は道案内の場面で、相手の応答文から判断して適切な質問文を選択する問題である。それぞれの場面で用いられる応答の定型表現について、理解が十分ではない状況がみられる。問題⑫は、友達と別れるときの表現"See you."を選ぶ問題であり、正答率は93.3%と高くなっている。問題⑬は、友達をいたわるときの表現"That's too bad."を答える問題であるが、正答

る。問題⑬は、友達をいたわるときの表現"That's too bad."を答える問題であるが、正答率は57.3%にとどまっている。このような、直訳では本来の意味をとらえることができにくい表現や、ある場面で用いられる特有の表現などについては、授業において適切な場面を設定し実際に英語を使わせながら身に付けさせていく必要があろう。

「対話文を読んで文脈に応じて表現する」能力をみる問題では、電話での対話について出題した。その場面でよく使われる特有の表現を選ぶ問題⑭、⑮の正答率は、それぞれ79.8%、79.0%と高くなっている。一方、前後の関係から内容をとらえ適切な答えを選ぶ問題⑯、⑰の正答率は、それぞれ49.5%、56.7%と低くなっている。このことから、考えや気持ちなどを伝え合うコミュニケーション活動をとおして、生徒同士に意味のある情報のやりとりを経験させ、相手の意向を理解する力を持つよう指導を工夫する必要があると思われる。

③ 「読むこと」の領域



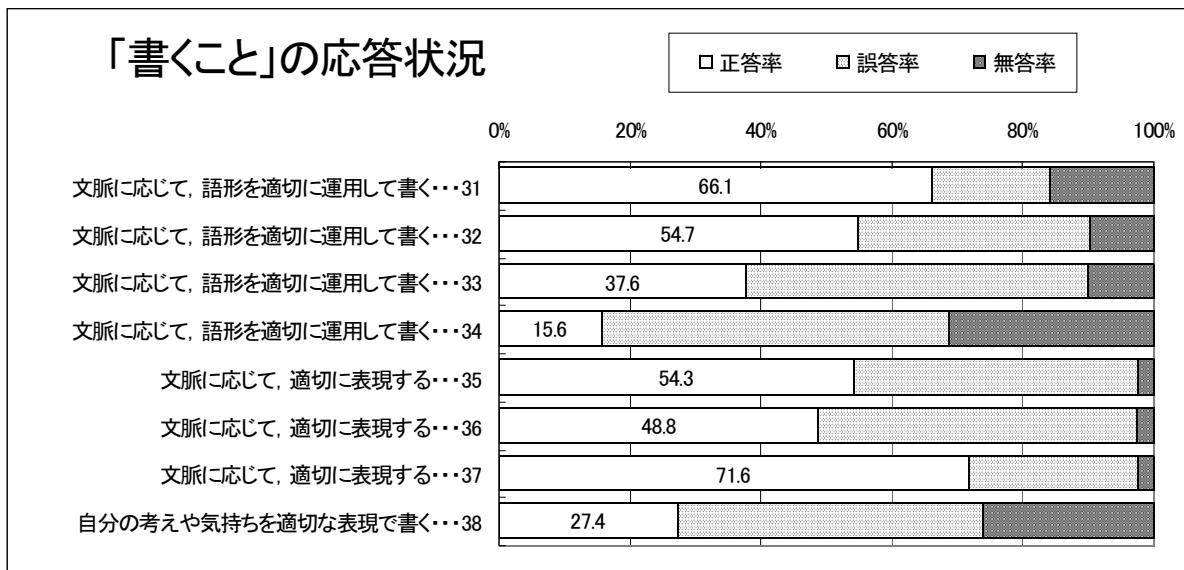
問題⑯～⑲は、Yukari が Jane に送ったEメールの文を読んで答える問題である。「Eメールの文の具体的な内容を読み取る」能力をみる問題では、Eメールの差出人と受取人について答える問題⑯とEメールがいつ書かれたか答える問題⑰の正答率はそれぞれ85.9%、84.8%となっており、いずれも高かった。しかし、「Eメールの文の概要を読み取る」能力をみる問題では、問題⑲の正答率が30.3%と低かった。これは、五つの選択肢の中から本文の内容に合っているものを二つ選ぶ問題であり、文の流れを把握して内容をとらえる力が不足していると思われる。また、二つ選ぶべきところを一つしか選んでいない誤答が23.5%と高く、問題をよく理解したうえで解答する習慣を身に付ける必要があろう。

「対話文の内容を要約して表現する」能力をみる問題では、具体的に書かれている内

容について答える問題②③、④の正答率は、それぞれ73.7%、63.3%と高くなっている。一方、対話文の内容を総合的にとらえ、自分なりの言葉で言い換える問題②、⑤の正答率は、それぞれ59.3%、47.2%と低くなっている。

「長文の要点を読み取り質問に適切に応答する」能力をみる問題では、Mr. White の好きなスポーツについて答える問題⑦の正答率が74.7%と最も高かった。正答率が低かったのは、問題⑧と問題⑨で、それぞれ35.3%、28.3%となっている。これは、平成13年度の調査（以後、前回）と同じ傾向である。これらは、やや複雑な長文の内容を時間の前後関係や文脈を理解して答える問題である。問題⑩の質問は"Was Tomoko happy [before] Mr. Whit's English class?", 問題⑪の質問は"Did Tomoko answer Mr. White's question [at first] ?"であり、いずれも [] 内の語がキーワードとなっている。これらに答えるには、時間の前後関係を理解して話の流れを的確にとらえる力が必要となる。その力を養うためには、意図的に読み物教材を用意し、読む視点を与えるなどして「読み方」を身に付けさせることが大切だと思われる。

④ 「書くこと」の領域



「文脈に応じて語形を適切に運用して書く」能力をみる問題では、be 動詞の現在形 is を過去形の was に書き換える問題⑩の正答率が、66.1%と最も高かった。一方、副詞 well をその比較級 better に書き換える問題⑪の正答率は、15.6%と最も低かった。問題⑫は、"They were (play) baseball."という文中の一般動詞 play を適切な形に書き換える問題である。前後関係からこの文が過去進行形であると理解し、playing と書き換えることができた生徒は37.6%（前回 44.8%）にとどまった。

「文脈に応じて適切に表現する」能力をみる問題は、与えられた語を並べかえて文脈に合うように英文を完成させるものである。問題⑬の正答率は54.3%であった。正答は「疑問詞 + did + 主語 + 動詞～？」という構成の文であり、疑問詞を用いた文の基本的な構造を理解していない生徒も多いといえる。不定詞の形容詞的用法についての問題⑭の正答率は、48.8%と低かった。相手に手伝いを求めるときの定型表現 (Can you help me?) を答える問題⑮の正答率は、71.6%と高かった。

「自分の考えや気持ちを適切な表現で書く」能力をみる問題⑯については、前回までとは形式を変えて出題した。前回までは書かせる英文が一文であり、与えられたテー

マ（将来なりたい職業ややってみたいこと）によって英文を書くときに用いる文法事項が限定されてしまう傾向があった。そこで今回は、自己表現の度合いをより強め、生徒に身近なテーマに基づいてまとまりのある文を書かせることを意図して出題した。テーマは、生徒にとって書きやすく、また書きたい内容に応じて自分で文法事項を選択できるよう、「好きな季節とその理由」とし、三文以上の英文を書かせることとした。

主な結果は、次のとおりである。

	解答類型	応答状況 (%)
正答	三文以上書いてあり、文章の内容のつながりがよいもの	8.1
正答	三文以上書いてあり、未習語等の誤りや前置詞の誤りなどはあるが、文章の内容が理解できるもの	19.3
誤答	三文以上書いてあるが、単語のつづりや文法事項の誤りが多く、文章の内容が理解できないもの	18.6
誤答	二文以下しか書いていないもの	19.7
無答	未記入のもの	26.2

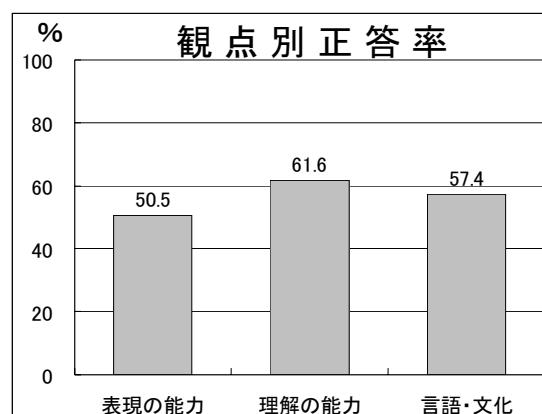
この問題の正答率は27.4%と低く、無答率は26.2%と高かった。それらの原因として、生徒がまとまりのある文を書くことに慣れていないため、「どのような筋道で書いていけばよいかわからない」、「何を書いてよいかわからない」、「書くことが面倒だ」などということが考えられる。また、語彙や文法事項の定着が図られていないことも原因の一つであろう。

まとまりのある文を書くためには、語彙や文法の力とともに自分の考えなどを適切に表現する力が必要である。そのような表現力を養うためには、生徒にできるだけ多く自己表現の場を与え、実際に英語を使いながら繰り返し自分の考え方や気持ちなどを発信させたり、互いにやりとりさせたりすることが大切である。その際、生徒が興味・関心をもって表現活動に取り組めるよう、できるだけ身近な話題やテーマを与えるよう配慮する必要がある。そのような経験を重ねることによって、生徒は物事を筋道を立てて考えたり、考えたことを適切に表現したりする力を身に付けるとともに、語彙や文法の定着も図ることができると考える。

(2) 観点別正答率

右のグラフは、問題構成表にしたがって、各問題を各観点ごとに分け、観点別の平均正答率を比較したものである。

今回の問題については、正答率を60%と想定して出題したことを考えると、「理解の能力」は概ね良好な状況であるといえる。しかし、「表現の能力」及び「言語や文化に対する知識・理解」については、今後さらに指導の充実を図っていく必要があると思われる。



(3) 過去の応答状況との比較

() 内は無答率

領域	出題の意図	通し番号	正 答 率 [%]				
			H 5	H 9	H11	H13	H15
聞くこと	絵の内容を正しく表す英文を聞き取る能力をみる 対話文の具体的な内容を聞き取る能力をみる	②			70.0 (0.4)	75.7 (0.1)	89.8 (1.3)
		③				76.0 (1.5)	80.8 (1.1)
		④				49.1 (26.7)	76.1 (10.4)
	英文の概要を聞き取り、質問に適切に応答する能力をみる	⑤	39.8 (2.0)	32.3 (2.0)	39.1 (0.5)	44.7 (2.5)	32.9 (1.4)
		⑥	62.6 (2.1)	45.8 (1.6)	65.5 (0.0)	66.9 (0.9)	63.5 (1.3)
		⑦	50.6 (1.8)	41.0 (2.2)	56.3 (0.3)	60.7 (0.9)	58.6 (1.6)
		⑩			48.6 (0.5)	51.3 (0.6)	47.0 (1.5)
話すこと	場に応じた英語の使い方についての理解をみる 対話の流れを把握し、文脈に応じて適切に応答する能力をみる	⑪			62.8 (0.6)	64.5 (0.8)	48.4 (1.9)
		⑭	75.7 (1.2)	74.9 (2.2)	77.9 (2.5)	81.8 (3.3)	79.8 (1.3)
		⑮	77.4 (1.2)	77.8 (2.4)	77.6 (2.1)	82.4 (3.4)	79.0 (1.3)
		⑯		49.4 (2.3)	53.7 (2.3)	59.0 (3.2)	49.5 (1.5)
		⑰			55.4 (2.8)	59.1 (3.4)	56.7 (1.6)
		⑯			82.6 (2.5)	87.7 (0.5)	85.9 (0.9)
		⑯			65.6 (2.1)	65.9 (0.5)	84.8 (1.0)
読むこと	手紙文を読んで英語での手紙の書き方の形式とその内容の要点を的確に読みとる能力をみる (H 5 ~ H 13) E メールの文を読んで概要をとらえたり具体的な内容を読み取ったりする能力をみる (H 15)	⑯			58.7 (2.3)	58.5 (0.8)	70.3 (0.9)
		⑯			26.7 (2.8)	25.6 (1.3)	30.3 (2.1)
		⑯	22.6 (0.7)	16.4 (1.4)	19.6 (1.6)	20.1 (2.7)	35.3 (1.7)
		⑯		78.5 (1.0)	78.6 (1.3)	82.7 (1.3)	74.7 (1.8)
		⑯	28.4 (0.5)	19.0 (1.9)	20.6 (1.7)	22.9 (2.1)	28.3 (2.8)
		⑯			40.3 (3.7)	44.0 (4.8)	59.6 (3.4)
		⑯			63.5 (8.3)	65.4 (7.1)	54.7 (9.8)
書くこと	文脈に応じて語形を適切に運用する能力をみる 基本文の構成を理解し文脈に応じて適切に表現する能力をみる	⑯			40.7 (8.5)	44.8 (7.1)	37.6 (10.1)
		⑯			67.2 (2.8)	67.3 (3.4)	54.4 (2.3)
		⑯			37.9 (3.2)	63.1 (3.9)	48.8 (2.6)
		⑯				66.4 (4.4)	71.6 (2.3)
	自分の考え方や気持ちを適切な表現で書く能力をみる	⑯			23.2 (34.1)	33.1 (28.4)	27.4 (26.2)

※太線内網掛けの部分は同一問題、それ以外は類似問題を表す。通し番号は、平成15年度の問題番号である。

同一問題の正答率について過去と比較すると、平成11年度とほぼ同程度であるが、前回と比較すると低下しているものが多い。その原因の一つとして考えられるのは、解答方法の変更に伴う誤記入である。前回までは、選択問題については解答用紙にあらかじめ選択肢の番号が記入されており、それらを○で囲む形式であった。しかし、今回は、空欄に生徒が番号を記入する方式としたため、「1」を「ア」と書いてしまうなどの誤答が予想以上に多かった。

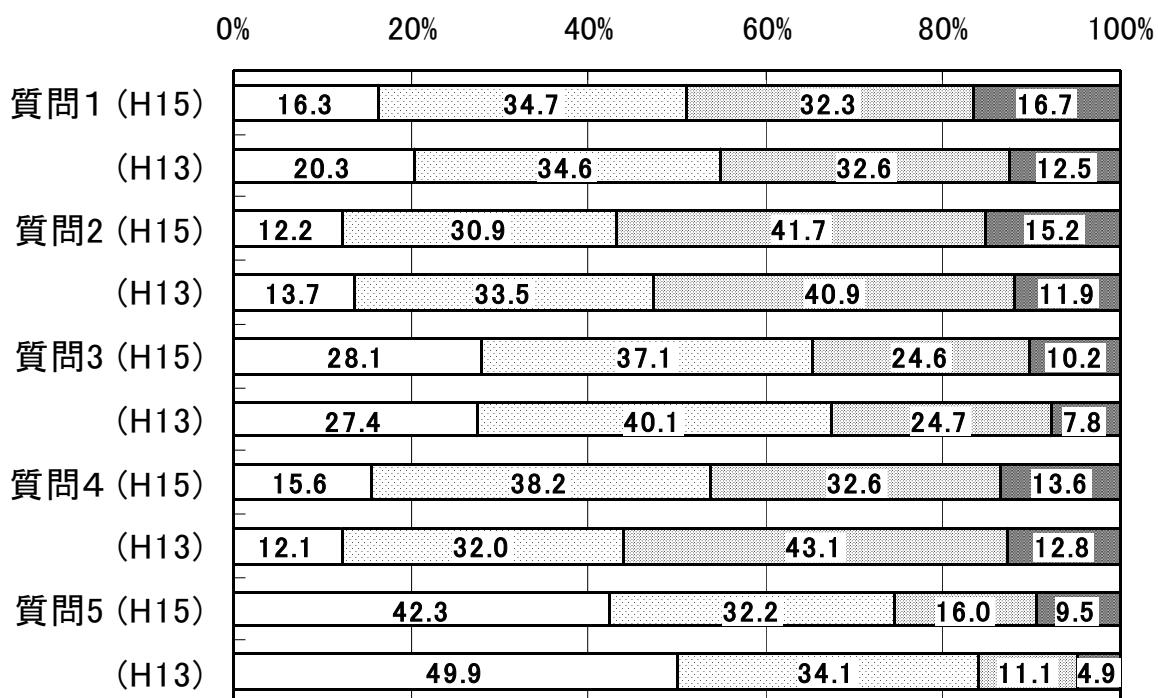
無答率については、その平均は前回を下回る。特に「話すこと」の領域において減少している。また、問題⑩については、前回までは「英文を一文書く」問題であったが、今回は「三文以上書く」問題に変更したにもかかわらず、前回までと比較しても無答率が最も低くなっている。このことは、音声重視の指導とともに「書くこと」の指導も以前より増え、生徒の「書くこと」への抵抗感が減少してきたことを示すものであろう。

(4) 意識調査

- 質問1 英語の学習を楽しいと感じることがありますか。
 ①よくある ②わりとある ③あまりない ④ほとんどない
- 質問2 英語の学習で、進んで英語を聞いたり話したりしようとしていますか。
 ①している ②わりとしている ③あまりしていない ④ほとんどしていない
- 質問3 分からない英語の単語や表現があったとき、辞書を使ったり、前後の関係から判断したりして読もうとしていますか。
 ①している ②わりとしている ③あまりしていない ④ほとんどしていない
- 質問4 自分の考え方や気持ちなどを英語で書くとき、学習した表現を使って分かりやすく書こうとしていますか。
 ①している ②わりとしている ③あまりしていない ④ほとんどしていない
- 質問5 英語の学習は、これからの自分の生活に役立つと思いますか。
 ①とても思う ②わりと思う ③あまり思わない ④思わない

意識調査結果

① ② ③ ④



質問1及び質問2について、英語の学習を楽しいと感じることが「よくある」「わりとある」と回答している生徒は51.0%，進んで英語を聞いたり話したりしようと「している」「わりとしている」生徒は43.1%にとどまっている。このことから、生徒に英語を使う楽しさを味わわせ、英語の学習は楽しいと感じさせるための指導の工夫が求められる。また、「聞くこと」や「話すこと」の活動では、生徒が積極的に活動に取り組むような魅力ある活動を設定することが大切である。生徒の興味・関心のある話題などを取り上げ、それについて自分の考えや気持ちなどを表現させる自己表現活動なども、魅力ある活動の一つであると考える。

質問3では、分からぬ英語の単語や表現があっても何とかして読もうと「している」「わりとしている」生徒が65.2%と、比較的高い数字を示している。

質問4では、学習した表現を使って分かりやすく書こうと「している」「わりとしている」生徒は53.8%で、前回(44.1%)と比較すると、約10%増加している。このことから、「読むこと」や「書くこと」に前向きに取り組もうとしている生徒の様子を読み取ることができる。

質問5では、英語の学習はこれからの自分の生活に役立つと「とても思う」「わりと思う」生徒が74.5%に上る。しかし、この質問については、前回(84.0%)より約10%減少している。この英語に対する有用感については、授業を通して、英語を使えることによって自分の世界を広げられることなどの英語を学ぶ意義を実感させることが大切であろう。

3 まとめと今後の課題

○「聞くこと」「話すこと」について

問題ごとの正答率に多少の差はみられるものの、全体としては概ね良好な状況である。

○「読むこと」について

分からぬ単語等があっても何とかして読み続けようとする意欲は高まっている。しかし、時間の流れや前後関係を理解しながら文章を読み、正確に概要をとらえたり具体的な内容を読み取ったりする力は十分とはいえない。

○「書くこと」について

分かりやすく英文を書こうとする意識は高まっている。しかし、基本的な語彙や文法事項の定着が不十分であり、また、まとまりのある文を書くために筋道を立てて考える力や適切に表現する力も十分とはいえない。

○英語学習や英語でのコミュニケーションへの関心・意欲・態度について

英語を「読むこと」や「書くこと」についての意識は高まっている。また、「英語は自分の生活に役立つ」と考えている生徒も多いが、その意識が英語学習や英語でのコミュニケーションへの意欲に結び付いていない。

英語の学習指導改善のために

調査結果から明らかになった課題のうち、今回は次の2点について、学習指導の工夫・改善のポイントをQ&A形式にまとめましたので参考にしてください。

- 1 「書くこと」についての表現の能力を高める指導の工夫
- 2 生徒の英語学習への関心・意欲を高める指導の工夫

Q1 「書くこと」について、表現の能力を高めるにはどのような指導をしたらよいでしょうか。

英文を書くことは、生徒にとっては難しいことの一つです。特に、まとまりのある英文を書くためには、どのような筋道で英文を書いたらよいかを考える力が必要です。そこで、「書くこと」を他の3領域との関連を図りながら指導し、書く内容を明確にして英文を書かせるなどして、表現の能力を高める工夫をするとよいでしょう。

A1-1 「話すこと」との関連を図った指導を心がけ、英文を書く活動を意図的、継続的に授業に取り入れましょう。

ここでは、「話すこと」との関連を図り、書く内容を明確にして英文を書かせるよう工夫した指導例を紹介します。授業中、言語の使用場面や言語の働きを意識したコミュニケーション活動を設定し、実際の生徒の考え方や気持ちなどをやりとりさせます。その後、話した内容を書いてまとめさせます。ここで生徒は、自分が話した内容を書くことになるので、「書くこと」に対する抵抗感が少なくなります。また、継続して行うことで、生徒は英文を書くこと慣れるとともに、英語で表現する力を身に付けることができます。もちろん、学年に応じて書く内容や量は異なりますので、3年間を見通して指導していくことが大切です。



【1年生の指導例】

これは、「Do で始まる疑問文とその答え方」を扱った指導例です。はじめに、この言語材料の理解を図るための練習を十分に行います。次に、この言語材料を用いてコミュニケーションを図る活動を行います。その後、自分が話した内容を書かせます。1年生の初期ということもあります。何を書いたらよいかはっきり分かるよう明示します。ここでは、相手の質問とそれに対する自分の応答を書かせます。書くといつても copying に近いのですが、このような活動を工夫して「書くこと」に慣れさせていくことが大切です。

<ワークシート例（一部抜粋）>

I — Name _____

☆ Let's Talk 3

- A: Hi, B.
B: Hi, A.
A: I like sports <music>.
B: Oh, you like sports <music>.
A: That's right.
① Do you like sports <music>?
B: ② Yes, I do. ③ I play <like>....
② No, I don't. ③ But I like....
A: I see.

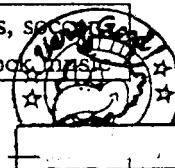
☆ Let's Write !

① Do you like music?

② Yes, I do.

③ I play the trumpet → That's great!

sports — basketball, tennis, volleyball, soccer, baseball, table tennis, soccer
music — the piano, the guitar, the drums, J-pop, classical music, rock music



【2年生の指導例】

次の例は、「動名詞」を扱った指導例です。ここでも、言語材料についての理解を図るために練習を十分に行い、その後、「動名詞」を用いながらコミュニケーションを図る活動を行います。2年生なので対話例にも空欄を増やし、生徒自身に質問を考えさせたり、応答させたりします。ここでのポイントは、事前に質問を考えさせておくのではなく、対話しながら考えさせるようにすることです。その後、自分が話した内容を書いてまとめさせます。ここでは、ある程度まとまった量を書かせることになるので、まとめ方のモデルを示すことによって、どのように書くべきか示唆を与えるようにします。生徒の実態に応じて工夫を加え、例えばモデル文中に下線を入れるなどして、その部分だけ置き換えれば生徒が書きたい英文となるようにしてもよいでしょう。

<ワークシート例（一部抜粋）>

II - Name _____

☆ Let's Talk 2

A: Hi, B.
B: Hi, A.
A: What do you enjoy when you are free?
B: I enjoy _____ when I'm free.
A: Oh, you enjoy _____ when you are free.
_____?
B: _____
A: _____?
B: _____
A: I see.
B: How about you, A?
What do you enjoy when you are free?
.....

☆ Let's Write 2

I enjoy listening to music when I am free. I like J-pop very much.
My favorite singer is Ayumi Hamasaki. I have a lot of CDs of her.
One of my friends Tadashi likes her very much too.

I enjoy watching TV when I am free. I like
music TV. My favorite TV program is Music
Station. I watch TV about 3 hours in a day.
One of my friends Tomoko enjoys watching
when she is free.
My favorite TV program too!

Good!



【3年生の指導例】

次の例は、ある読み物資料を扱った指導例です。はじめに資料を読ませます。その後、その内容をモチーフとして、生徒自身の将来の夢や人生において最も大切だと考えることなどについて、話し合いをさせます。話し合う内容としてはやや難しいかもしれません、自分の進路に目を向ける時期でもあり、生徒は真剣に自分の考えを述べようとします。書く活動では、はじめに教師が書くべきポイントを口頭で説明してから、書かせるようにします。ここでは、「将来の夢とその理由」及び「人生において最も大切だと考えていること」の二つになります。

<ワークシート例（一部抜粋）>

III - Name - - - - -

☆ Let's Talk 2

A: May I ask you some questions about Joe and yourself?
B: Sure.
A: Joe had a dream to be a professional soccer player when he was little.
B: Right.
A: What is your dream for the future?
B: _____ because _____.
A: Oh, really? Then what do you have to do to be _____?
B: _____
A: I see. By the way, when Joe broke his leg, his nurse said, "Life is full of chances." Do you agree with her?
B: _____
A: Oh, you think so? After Joe got the advice, he didn't give up. What is the most important thing in life? What do you think?
B: I think _____.
A: I see.

☆ Let's Write! That's good. I think you can do it!

My dream is to be a doctor. I want to help many people. But, it's not easy. I have to study hard and harder. But, I'll do my best. And, I think never give up is the most important thing in life.

NEVER GIVE UP!



以上、各学年における「書くこと」の指導について紹介しました。このような学年に応じた指導を心がけることが大切だと考えます。また、書く場面を繰り返し設けて生徒に英文を書く経験を積ませ、適宜助言等を与えることによって、筋道を立てて考える力や英語で表現する力を身に付けさせることができると考えます。

A1-2 「スキット」を授業に取り入れ、表現力を高めましょう。

ここでは、「スキット」を授業に取り入れた指導例を紹介します。生徒にオリジナルのスキットを作らせ、発表会を開きます。スキットの原稿作成は「書くこと」、発表のための練習は「読むこと」、発表会では「話すこと」「聞くこと」というように、4領域の関連を図った総合的な活動となります。スキット作りでは、生徒の自由な発想を生かすことができ、生徒は意欲的に活動に取り組みます。また、スキットにできるだけ「落ち」を付けさせることで、より楽しい活動になります。活動の手順は、以下のとおりです。

<活動の手順>

- ① できればTTにより、モデルスキットを生徒に示す。
- ② ペア（あるいはグループ）を作り、スキットの原案を考える。
- ③ 英文の原稿を書く。その際、できるだけ既習事項を使うようにさせるが、必要に応じて未習語等も使ってよいこととする。
- ④ JTE（あるいはALT）が原稿に目を通し、助言を与える。
- ⑤ 発表の練習をする。発表に際しては、小物等を使用してもよいこととし、楽しい発表になるようにする。
- ⑥ 発表会を開く。他の発表について評価をさせるとともに、自分の発表についても自己評価させるようにする。

<作品例>

Mark is from England.

Mark: Hi, Yuji.

Yuji: Hi, Mark.

Mark: Where are you going, Yuji?

Yuji: I'm going to the park to play baseball with my friends.

Mark: Oh, really? May I join you? I play soccer, but I've never played baseball before.

Yuji: Sure, but do you have a glove?

Mark: A glove? Yes, I do. I'll go home and take it with me to the park.

Yuji: OK. I'll see you in the park.

Ten minutes later.

Mark: Hi, Yuji. Now I have a glove.

Yuji: Mark!? I know that's a glove, but....

（マークが持ってきたのは、野球用のグラブではなく単なる手袋だった。）

上記の作品例は、未来を表す表現を学んだ单元のまとめとして設定した活動で、生徒が作成したスキットです。この作品には「イングランド出身のマークは、野球についてほとんど知らないので、野球用のグローブではなく手袋を持ってきた」という「落ち」が付いていて、楽しい発表になりました。

ここでは、この単元で学んだ未来を表す表現を必ず用いることを条件としましたが、スキットを授業に取り入れる目的によっては、言語材料や場面設定に条件を与えるなど、いろいろ工夫することができます。また、生徒の実態に応じて、スキットを自由に作らせたり、即興でスキットを演じさせたりしてもよいでしょう。

さらに、スキットの活用は観点別評価をする際にも非常に役に立ちます。スキット作成や発表のための練習などの様子から「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を、また、スキットの発表においては「表現の能力」を評価することができます。

A1-3 基本的な語彙や表現の定着を図るために、短時間で行える活動を継続して行っていくことが有効です。

ここでは、ペアで行う活動例を紹介します。相手が言う日本語を聞いて、それに合う英文を言うものです。短時間に授業のウォームアップなどとして行うことができ、しかもゲーム感覚で行えるので、生徒は楽しみながらも集中して取り組みます。また、お互いが同じ種類のシートを見ながら、繰り返し声に出して練習するので、基本的な語彙や表現を口から覚えることができます。当然、ここで身に付けた表現は「書くこと」にも生かすことができます。活動の手順は、以下のとおりです。

<活動の手順>

- ① 英文を教師のあとに繰り返して読む。
- ② 個人で練習する。
- ③ ペアで練習する。

ア はじめにジャンケンをし、負けた生徒は日本文を言い、勝った生徒はその日本文に合う英文を言う。

イ 日本文を言った生徒は、相手が言った英文が正しいかチェックする。

ウ それぞれの持ち時間（2分間）を経過したら、正確に言えた英文の数で自己評価する（シート例参照）。

エ 一人が終わったら交代して行う。

- ④ 多くの生徒が AA, A の評価を得ることができたら、次のシートに移るようにする。



【シート例】

II - Name								
	English Sentences		Check		日本語訳			
1	Go ahead.				お先にどうぞ（先に話して）。			
2	Thank you. Let's talk about yesterday.				ありがとう。 昨日のことについて話そう。			
3	Were you absent from school yesterday?				昨日、学校休んだ？			
4	Yes, I was. / No, I wasn't.				うん、休んだよ。／ 休んでないよ。			
5	What were you doing at nine last night?				昨日の夜9時は何をしていたの？			
6	I was ()ing () then.				そのときは（ ）をしていたな。			
7	I see. / Really? Next, let's talk about today.				そうなんだ。／ 本当？ 次は今日のことについて話そう。			
8	Which do you like better, English or math?				英語と数学どっちが好き？			
9	I like (English / math) better. ／ I don't like either.				(英語／数学)の方が好きだな。 ／どっちも好きじゃないな。			
10	Will you go to your club today?				今日は部活に行くつもりなの？			
11	Yes, I will. / No, I won't.				うん、行くつもりだよ。／ わい、行かないつもりだよ。			
12	Will you study after school today?				今日は放課後勉強するの？			
13	Yes, I will. I must study hard. / No, I won't.				うん、するつもりだよ。一生懸命勉強しなくちゃ。 ／いや、しないつもりだよ。			
14	Take it easy. / You must study hard.				楽にいこうよ。 ／一生懸命勉強しなくちゃだめだよ。			
15	I think so. / I don't think so.				私はそう思う。 ／私はそう思わない。			

☆ M Y G R A D E ☆
AA : 15 A : 14~12 B : 11~8 C : 7~3 D : 2~0

Date	/	/	/	/	/	/	/	/
Grade								

この活動は、日本語を用いるので、英語が不得意な生徒にも取り組みやすいものになります。ただし、この活動では英文を言う速さを求める事になるので、発音やイントネーションがおろそかになってしまふこともあります。ですから、最初の全体練習で注意を促したり、活動中に個別指導をすることも大切です。さらに、ある程度英文が言えるようになったら、それらを用いて対話練習させたり、ALTと対話させるなど、方法を工夫して活動することもできます。

Q2 「書くこと」について、生徒が積極的に書く活動に取り組むようにするためには、どのように指導したらよいでしょうか。

A2 できるだけ生徒に身近な題材を与えることで英文を書く意欲を喚起し、書く活動に積極的に取り組めるようにしましょう。

生徒に「英文を書いてみよう」という意欲をもたせるには、身近な事柄や興味・関心のある事柄を題材に設定することが大切です。また、そういった書く活動を年間指導計画に位置付け、系統的・継続的に指導し、「書くこと」に慣れさせていくことも大切なことです。ここでは、教科書にも取り上げられているEメールや手紙、日記などを題材として書く活動を設定した指導例を紹介します。

【Eメール】

これは、外国の中学生とEメールのやりとりをすることを想定して、自己紹介の文を書く活動です。できるだけ既習事項を用いて、自分自身について表現させるようにします。自分で英文を書ける生徒には、自分らしさを伝えられるような文章を書くよう助言します。また、英語が得意ではない生徒には、それぞれの力に応じて書くことができるよう下記のような文例を与えます。文例1は、どのような内容を書くのか理解しやすいよう、下線部に単語を記入してあるものです。生徒は、下線部のそれぞれの語を自分自身のことに置き換えるだけで、メールの文を完成させることができます。文例2は、空欄に自分なりの単語を入れれば、メールの文を完成させることができるようにしてあるものです。この活動では、文例を参考にしている生徒にも、適宜英文を書き換えたり書き加えたりして、自分自身の紹介文とするよう促すことも大切です。そのことにより、生徒全員に「自分なりの文を書くことができた」という達成感をもたせることができ、「書くこと」への意欲を高めることができます。生徒の実態に応じて、文例1は使わず、文例2やさらに自由度を高めた文例を用意して、生徒に示すこともできます。

<文例1>

Hi, Bob.
I am going to introduce myself.
I'm Ken Sogo.
I'm 14 years old.
My hobby is playing soccer.
I enjoy playing soccer every day.
I have a brother.
His name is Sentaro.
He likes playing soccer (too).
I hope to hear from you soon.

<文例2>

Hi, _____.
I am going to introduce myself.
I'm _____.
I'm _____ years old.
My hobby is _____.
I enjoy _____ every day.
I have a _____.
His name is _____.
His hobby is _____ (too).
I hope to hear from you soon.

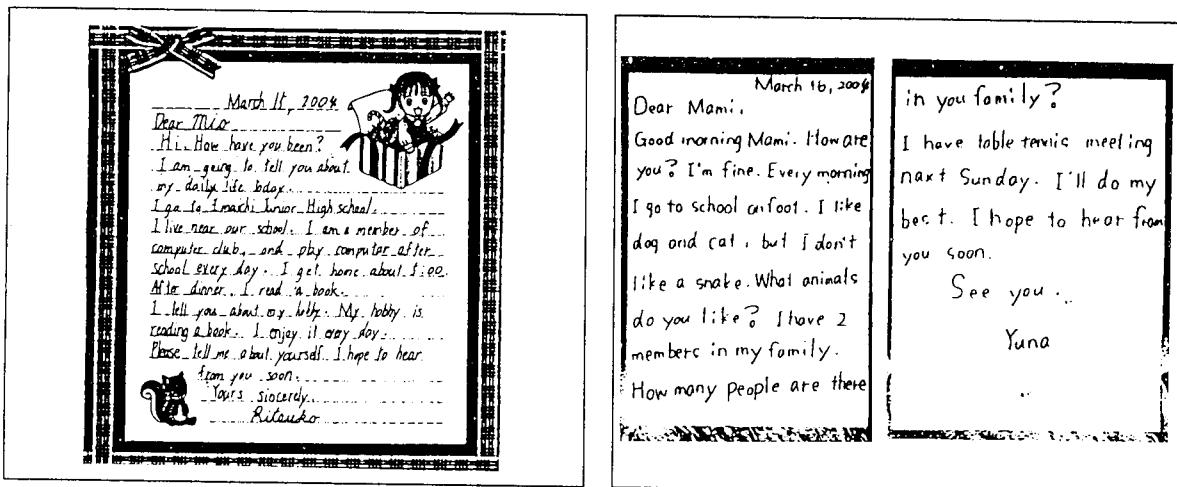
この活動の後、コンピュータを使ってEメールのやりとりをする活動へ発展させることもできます。例えば、はじめは生徒とJTEあるいはALT、または生徒同士のやりとりとしてもよいでしょう。その後、生徒がコンピュータの操作等に慣れてきたら、海外のEメールフレン

ドを見つけて、実際にやりとりをさせることもできます。実際に外国の子どもたちと英語でやりとりすることによって、英語を学ぶ意義を再確認したり、英語を使う楽しさを実感したりすることができ、英語学習の意欲も高まるでしょう。なお、実際にEメールのやりとりをさせる場合は、生徒に対するネチケットの指導が必要となります。

【手紙】

これは、教科書で手紙文を扱った後に、友達あてに実際に手紙を書いた活動例です。はじめに、日本語と英語での宛先や宛名の書き方の違いや手紙文で用いる定型表現などを再確認します。特に、宛先等を実際に書かせてみると、生徒は日本語との違いを実感して興味をもって活動に取り組みます。次に、手紙文を書かせます。このときには、Eメールを書く活動で示したような文例を示してもよいでしょう。本物の便せんを各自用意させて書かせるようにすると、より雰囲気が出ます。

<手紙例>



【日記】

これは、文化祭や修学旅行などの学校行事の後や夏休みなど長期休業後の授業で、その思い出や感想等を日記の形式で表現させる活動です。生徒には、楽しかったことやうれしかったことなどを英語で自由に表現させます。実際の体験に基づいた内容を書くことになるので、生徒にとって英語を書きやすい題材となります。また、文章だけではなく、絵を描いてもよいとして活動の楽しさも広がります。活動後には、お互いの作品を鑑賞し合うことで、次の活動への意欲も高まります。また、それぞれの日記の内容について互いに英語で質問し合うなど、活動を発展させることもできます。

これまで述べてきたように、生徒にとって身近な題材を取り入れた活動を計画的・継続的に行い、意図的に書かせる機会を設けることにより、書くことに対する生徒の抵抗感を減らし、気軽に表現活動に取り組めるよう指導の工夫をすることが大切です。

Q3 生徒の英語学習への関心・意欲を高めるにはどうしたらよいでしょうか。

意識調査の結果から、「英語は役立つが英語学習は楽しくない」と考えている生徒が多いことが分かりました。ここでは、生徒の英語学習への意欲を高める指導例を二つ紹介します。いずれもポイント制を取り入れた指導例で、努力が目に見えるようにして生徒の意欲を高める工夫をしています。

A3-1 ALTを積極的に活用し、生徒に英語を使う楽しさを味わわせましょう。

ここでは、休み時間などを利用して生徒が自らALTに話しかけ、英語を話す楽しさを味わえるよう工夫した指導例を紹介します。生徒がALTと1対1で会話する時間は、授業だけでは十分に確保することができません。とはいっても、授業時間以外に自ら進んで話をしに行くのは、一部の生徒に限られてしまう傾向があります。せっかく学校に来ているALTを活用しない手はありません。会話する相手はJTEでもよいのですが、外国人と英語で会話をして意志疎通が図れたという喜びは、何ものにも代えることはできません。そこで、生徒に、「Talk to ○○」「○○(ALTの名前)に話しかけよう」というカード(図1)を配付します。生徒は授業時間以外にカードを持ってALTに話をしに行きます。会話がある程度成立したら、ALTにスタンプを押してもらいます。スタンプが10個押されると、生徒は'English Conversation Master'という認定証(図2)が渡され、教室にも掲示されます。こうすることで、生徒が英語を話すことに対して励みとなります。ALTと会話をして自分の英語が通じたという喜びは、「もっと英語を話せるようになりたい」という意欲へ変わり、英語学習へ前向きに取り組むようになるでしょう。



図1



図2

A3-2 継続的な学習に取り組ませ、「やればできる」ということを実感させましょう。

ここでは、「やってみよう」という意欲を高め、「やればできる」と実感できる単語練習と単語テストの指導例を紹介します。単語練習にまじめに取り組む生徒は、単語テストで満足のいく点数を取れる可能性が高くなります。そこで、生徒に継続して単語練習に取り組ませるために、教師のこまめな確認と、努力したことに対する賞賛を与えることが大切だと思います。そして、努力の結果、生徒が単語テストで満足のいく点数をとることができ自分も「やればできる」と実感できたら、英語学習への意欲が高まるでしょう。そこで、生徒の学習の動機付けとなるようポイント制を取り入れ、単語練習と単語テストを次のような手順で行います。

＜活動の手順＞

- ① 単元の終わりに実施する単語テストに向け、計画的に単語練習を宿題として出す。
- ② 必ず次時に教師が生徒の宿題を確認し、やってきた生徒に1ポイント与える（生徒のカードにスタンプを1回押印する）。
- ③ 単語テストを実施する。その際必ず、宿題で練習した単語を出題する。
- ④ 単語テストの結果、満点の生徒には2ポイント（スタンプを2回押印する）、また前回の単語テストより点数が上がった生徒には1ポイント与える。
- ⑤ 一定期間後、それぞれの生徒に賞賛を与える。

ここでは、ポイント制を取り入れカード（図3）にスタンプを押印することにより、日頃の努力が目に見えるので、生徒の意欲は高まります。また、単語テストは努力がすぐに結果となって表れるので、生徒の英語学習への意欲はさらに向上します。生徒を地道な学習に取り組ませるための教師の工夫と姿勢が重要です。

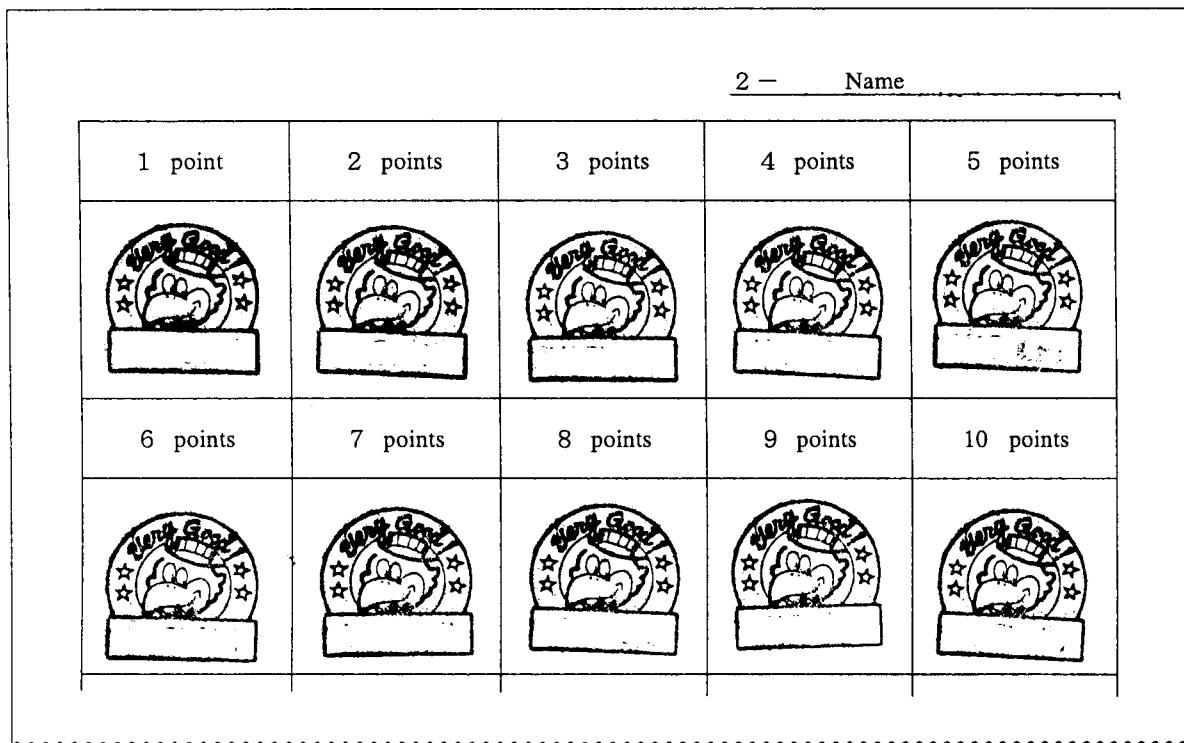


図3

問 題 構 成 表 (英語)

平成15年度 中学校第2学年

問題番号			通 領 し 番 号 域	出題の意図	観点			
大 問	中 間	小 問			関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	る言 知語 識や ・文 理化 解に 対 す
[1]	1		(1)	絵の内容を正しく表す英文を聞き取る能力をみる		○		
	2		(2)			○		
[2]	1		(3)	対話文の具体的な内容を聞き取る能力をみる		○		
	2		(4)			○		
[3]	1		(5)	英文の概要を聞き取り、質問に適切に応答する能力をみる		○		
	2	(1)	(6)			○		
		(2)	(7)			○		
	3	(1)	(8)			○		
		(2)	(9)			○		
[4]	1	(1)	(10)	場に応じた英語の使い方についての理解をみる		○	○	
		(2)	(11)			○	○	
	2	(1)	(12)			○	○	
		(2)	(13)			○	○	
[5]	1		(14)	対話の流れを把握し、文脈に応じて適切に応答する能力をみる		○	○	
	2		(15)			○	○	
	3		(16)			○	○	
	4		(17)			○	○	
[6]	1		(18)	Eメールの文を読んで、概要をとらえたり、具体的な内容を読み取ったりする能力をみる		○		
	2		(19)			○		
	3		(20)			○		
	4		(21)			○		
[7]	1		(22)	対話文を読んで、その概要をとらえ、要点を的確にまとめる能力をみる		○		
	2		(23)			○		
	3		(24)			○		
	4		(25)			○		
[8]	1	(1)	(26)	長文を読んで、概要をとらえたり、具体的な内容を読み取って質問に適切に応答したりする能力をみる		○		
		(2)	(27)			○		
		(3)	(28)			○		
		(4)	(29)			○		
	2		(30)			○		
[9]	1		(31)	文脈に応じて、語形を適切に運用する能力をみる		○		
	2		(32)			○		
	3		(33)			○		
	4		(34)			○		
[10]	1		(35)	基本的な文の構成を理解し、文脈に応じて適切に表現する能力をみる		○	○	
	2		(36)			○	○	
	3		(37)			○	○	
[11]			(38)	自分の考えや気持ちを適切な表現で書く能力をみる		○		
意 識 調 査	1			英語の学習全般についての関心や意欲をみる		○		
	2			進んで英語を聞いたり話したりしようとする意欲や態度をみる		○		
	3			わからない単語や表現があつても、前後の関係から判断するなどして読もうとする意欲や態度をみる		○		
	4			自分の考えや気持ちを相手に分かるように書こうとする意欲や態度をみる		○		
	5			英語の学習を自己の生活に生かしていこうとする意欲や態度をみる		○		

英語の学習に関する意識調査

中・英

平成15年度 栃木県学習状況調査問題

中学校第2学年英語

この調査は、英語の学習に関して、みなさんがどのように自分のことについて以下の質問にいるのかをみるためのものです。あなた自身のことについて以下の質問に答えてください。

※性別の記入のしかた	※出席番号が1～9の場合は 番号の前に0をつける （例）出席番号4番……04
男子：0 1、女子：0 2	1 2

次の質問1から質問5までのそれぞれについて、①～④の中から自分に最もあてはまるものを一つずつ選んで、その番号を右の□に記入してください。

質問1 英語の学習を楽しいと感じることがありますか。

- | | | |
|---|---|----|
| 組 | 番 | 氏名 |
|---|---|----|
- ①よくある。
②わりどある。
③あまりない。
④ほとんどない。

質問2 英語の学習で、進んで英語を聞いたり話したり話したりしようとしていますか。

- | |
|-----|
| 1 3 |
|-----|
- ①している。
②わりどしている。
③あまりしていない。
④していない。

質問3 わからぬ単語や表現があつたとき、辞書を使ったり、前後関係から判断したりして読もうとしていますか。

- | |
|-----|
| 1 4 |
|-----|
- ①している。
②わりどしている。
③あまりしていない。
④していない。

質問4 自分の考え方や気持ちなどを英語で書くとき、学習した表現を使って分かれていますか。

- | |
|-----|
| 1 5 |
|-----|
- ①している。
②わりどしている。
③あまりしていない。
④していない。

質問5 英語の学習は、これから自分の生活に役立つと思いますか。

- | |
|-----|
| 1 6 |
|-----|
- ①とても思う。
②わりど思う。
③あまり思わない。
④思わない。

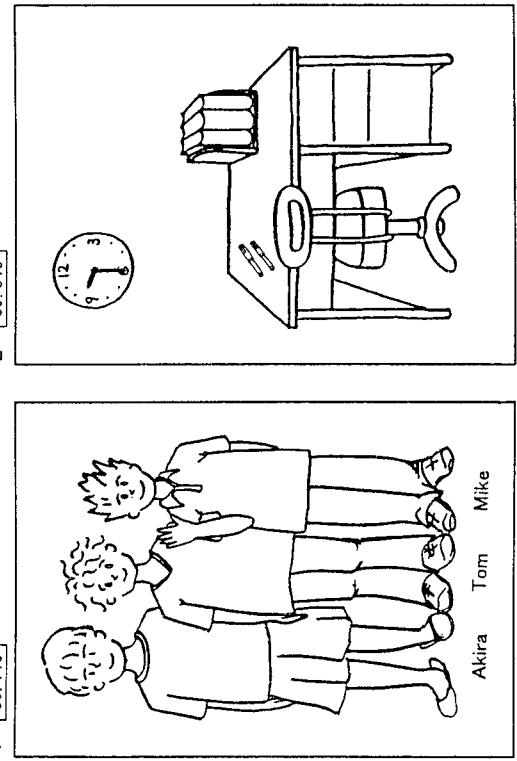
栃木県教育委員会

- 1 机の上には、鉛筆、消しゴム、定規、下じき以外の物を、置かないでください。
2 表紙と解答用紙の決められたところに、組、番号、氏名を書いてください。
3 時間は50分です。
4 答えは、必ず、解答用紙に書いてください。
5 印刷がはつきりしないときは、手をあげて先生に知らせてください。
6 わからない問題はあとまわにして、ひととおりやつてから、もう一度考えてください。
7 時間があまつたら、よく見直してください。

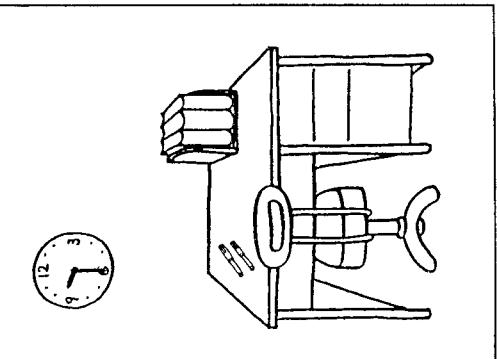
* □ 内の数字は正答率(%)を示す。

【1】[聞き取り問題] 溶の内容を正しく表しているものを選ぶ

- 1 [56.1%]



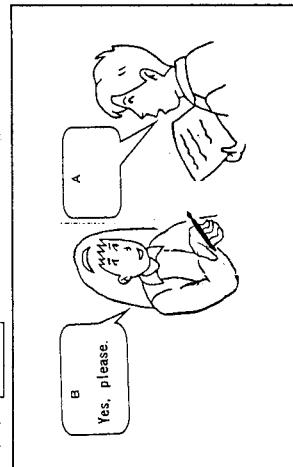
2 [89.8%]



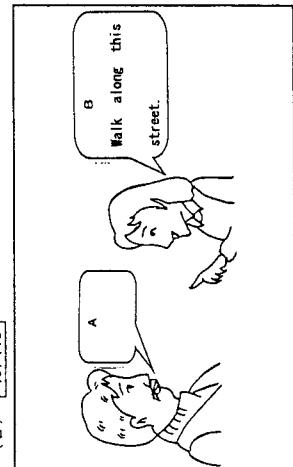
【4】次の1、2の間に答へなさい。

1 次の(1)、(2)の絵を見て、それぞれの場面で話される言葉として最も適切なものを1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を答へなさい。ただし、Aのせりふに対するBが答えるものとします。

(1) [47.0%]



(2) [49.4%]



- 1 Are you using a pen?
2 Can I use your pen?
3 Please use a pen.
4 Is this your pen?

2 次の(1)、(2)のようなどき、英語でどのように言いますか。1, 2, 3, 4の中からそれを最も適切なものを一つ選んで、その番号を答へなさい。

(1) 友だちと別れるとき [93.3%]

2 会うとき [63.5%]

3 お詫びするとき [58.6%]

4 お世話をうながすとき [40.2%]

(2) 友だちをいたわるとき [76.1%]

- 1 That's too bad.
2 Nice to meet you.
3 You are welcome.
4 Yes, let's.

【2】[聞き取り問題] 英文の内容に合うように日本語を書く

[80.8%]

- 1 ジムの兄のフレッドが先週の（ ）曜日に日本へ來た。
2 ケイタは（ ）がとても好きである。

[76.1%]

【3】[聞き取り問題] 英文の内容に対する質問の答えとして正しいものを選ぶ

1 1 1 2 3 4 [38.1%]

2 (1) 1 1 2 3 4 [63.5%]

(2) 1 1 2 3 4 [58.6%]

3 (1) 1 1 2 3 4 [40.2%]

(2) 1 1 2 3 4 [65.0%]

2 次の(1)、(2)のようなどき、英語でどのように言いますか。1, 2, 3, 4の中からそれを最も適切なものを一つ選んで、その番号を答へなさい。

(1) 友だちをいたわるとき [57.3%]

2 会うとき [63.5%]

3 お詫びするとき [58.6%]

4 お世話をうながすとき [40.2%]

5 次の会話は、浩二(Koji)がリンダ(Linda)に電話をかけたときのものです。この会話を完成するために、1, 2, 3, 4 の () にあてはまる文を、下の1から5の中からそれぞれ一つずつ選んで、その番号を答えなさい。

Koji:	Hello, this is Koji. (1)	79.8%
Mother:	All right. Just a minute, please.	
Linda:	(2)	79.0%
Koji:	Hello, Linda.	
	I'm going to go to Nikko with Masaki and Natsumi next Sunday.	
	(3)	49.5%
Linda:	Yes. That will be interesting. (4)	56.7%
Koji:	At Utsunomiya Station. We are going to meet there at 8 o'clock.	
	Is that OK?	
Linda:	All right. Bye.	

6 次のEメールの文を読んで、1, 2, 3, 4 の間に答へなさい。

Hi Jane,

We had a lot of snow yesterday. In Japan, it is very cold in January. This time I want to tell you about my friends. I have many friends. One of my friends is Keiko. She is my best friend. She lives near my house. We go to school and come home from school together. Some of my friends go to school by bus, but Keiko and I walk. Keiko and I like soccer very much. We are in the soccer club at school. We practice after school every day, and on Sundays we play soccer in the park near our school. She is a good player, but I am not. Do you play soccer, Jane? What sports do you like? Please tell me about your friends in your next e-mail.

Goodbye,
Yukari

(注) bus バス

- 1 このEメールはだれがだれがでありますか。
書いた人のですか。次の1, 2, 3, 4 の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。
85.9%
- 1 Jane が Yukari に
2 Keiko が Yukari に
3 Yukari が Jane に
4 Yukari's friend が Jane に
- 2 このEメールはどの季節に書かれたものですか。次の1, 2, 3, 4 の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。
書かれた季節のですか。次の1, 2, 3, 4 の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。
84.8%
- 1 春
2 夏
3 秋
4 冬
- 3 このEメールの主な内容は何ですか。次の1, 2, 3, 4 の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。
主な内容ですか。次の1, 2, 3, 4 の中から一つ選んで、その番号を答えなさい。
70.3%
- 1 Yukari の友だちについて
2 Jane の友だちについて
3 Yukari の学校について
4 Jane の学校について
- 4 このEメールの内容に合っているものを、次の1から5の中から二つ選んで、それらの番号を答えなさい。
30.3%
- 1 Keiko lives near Yukari's house.
2 Keiko and Yukari go to school by bus.
3 Yukari doesn't play soccer after school.
4 Keiko and Yukari play soccer in the park on Sundays.
5 Yukari is a good soccer player.

7 次の(A)の英文は、健(Ken)と留学生のボブ(Bob)との対話の一部です。また、(B)の英文は(A)の対話文と同じ内容になるように書きかえたものです。(B)の文中の1, 2, 3, 4の()に入れるものを、それぞれ1, 2, 3, 4の中から一つずつ選んで、その番号を答えなさい。

- (A)
- Bob: Hi, Ken.
Ken: Hi, Bob. What do you have in your hand?
Bob: I have some pictures. I took them in America.
Do you want to see them?
Ken: Oh, yes.
Bob: Look at this, Ken. It's a picture of the first day of school.
Ken: The first day of school?
Bob: Right.
Ken: The students are in T-shirts. Why are they in T-shirts?
Bob: Because it's still hot in September.
Ken: September?
Bob: In America, school begins in September and ends in June.
Ken: Oh, my English teacher told us about that before.
In Japan, school begins in April and ends in March.
Bob: I see. By the way, what are you going to do now?
Ken: We are going to clean our classrooms.
Bob: You clean your classrooms? That's interesting.
We don't clean our classrooms in America.
Ken: Really? We must clean our classrooms every day.

(注) took takeの過去形 America アメリカ T-shirt Tシャツ
still まだ end 終わる told tell の過去形 by the way ところで
classroom 教室

(B)

They are talking about (1). Bob has some (2). In one picture, the students are in T-shirts because it's hot there.
In America, school begins in (3). But in Japan, school begins in April.
In Japan, students have to clean their classrooms. But in America, students don't clean their classrooms.
School in America and school in Japan are (4).

8 次の英文を読んで、1, 2の間に答へなさい。

One morning, Tomoko's English teacher said to her class, "Next Friday we'll have Mr. White, an English teacher from Australia, in our class. He'll talk about sports and ask you some questions." Everyone was happy, but Tomoko wasn't. "What should I do? I can't speak English very well," she said to herself.
The day came and the English class started. Mr. White talked about sports. Then he asked some questions.
"Tomoko, what sports do I like?" he asked. "Swimming and basketball," answered Tomoko. "Pardon? I can't hear you very well," he said. "You like swimming and basketball," she said in a loud voice. "Good! Now please ask me a question," he said.
At first she didn't say anything, but at last she said. "I play the piano. Do you play the piano too?" "Oh, good! That's a good question," said Mr. White with a smile. "No. I don't play the piano, but I play the guitar." After the class, Tomoko said to her friends, "I was very happy today. I'm going to study English harder."

(注) should ~すべきである said to herself 心の中で思つた
in a loud voice 大きな声で at first 最初は anything 何も
at last 最後に with a smile ほほえんで

1 本文の内容について、下の(1), (2), (3), (4)の質問の答えとして最も適切なもののはどれですか。それぞれ1, 2, 3, 4の中から一つずつ選んで、その番号を答えなさい。

(1) Was Tomoko happy before Mr. White's English class?

- 1 Yes. She was happy.
2 Yes. Everyone was happy.
3 No. She wasn't happy.
4 No. Everyone wasn't happy.

(2) What sports does Mr. White like?

- 1 He likes tennis and basketball.
2 He likes basketball and swimming.
3 He only likes swimming.
4 He only likes basketball.

(3) Did Tomoko answer Mr. White's question at first?

- 73.7%
[59.3%]
1 their friend
2 their family
3 their school life
4 their teacher
- 47.2%
[63.3%]
1 March
2 April
3 June
4 September
- 28.3%
[56.2%]
1 Tomoko does.
2 Mr. White does.
3 Tomoko and Mr. White do.
4 Tomoko's friends do.

2 本文の内容と合っているものを、次の1, 2, 3, 4の中から一つ選んで、その番号を
答えなさい。59.6%

- 1 Mr. White came to Tomoko's class on Thursday.
- 2 Mr. White talked about Australia.
- 3 Tomoko didn't ask Mr. White a question.
- 4 Tomoko was happy after Mr. White's English class.

⑨ 次の文の()内の語1, 2, 3, 4を、それぞれ正しい形で書きなさい。

It (1 is) Sunday yesterday. Takeshi (2 go) to the park near his house.66.1%

He saw some friends there. They were (3 play) baseball. Takeshi played with them. They played (4 well) than Takeshi, but Takeshi had a good time.15.6%

⑩ 次の対話を完成させたためには、1, 2, 3の()内の語をどのように並べかえた
らしいですか。それぞれが正しい文になるように、解答用紙にあらつて番号で答
えなさい。ただし、文頭に来る語の初めの文字も小文字にしてあります。

例 My brother (1 after 2 studied 3 dinner 4 English) yesterday.

Mike: You look so sleepy.

54.3% 1 (1 did 2 go to bed 3 you 4 what time) last night?

Taro: A little after twelve.

Mike: Really? Why?

Taro: Because I (2 1 to 2 had 3 homework 4 a lot of) do.

Mike: Did you finish it?

Taro: No, I didn't.

Mike: What subject?

Taro: English. I don't like English very much.

71.6% 3 (1 you 2 me 3 can 4 help)?

Mike: Sure.

(注) finish 終える

あなたの好きな季節について、あなたの友だちに英語で説明するところです。あなたの好きな季節やその季節を好きなどについて、英文を三文以上書きなさい。最初の文はI likeで書き始め、この文も一文と数えることとします。27.4%

I like _____

It (1 is) Sunday yesterday. Takeshi (2 go) to the park near his house.54.7%

He saw some friends there. They were (3 play) baseball. Takeshi played with them. They played (4 well) than Takeshi, but Takeshi had a good time.37.6%

10 次の文の()内の語1, 2, 3, 4を、それぞれ正しい形で書きなさい。

My brother (1 after 2 studied 3 dinner 4 English) yesterday.

1 これから聞き取りの問題を始めます。放送のあいだ、メモをとつてもかまいません。聞用紙の1ページを見てください。では、四角1の問題から始めます。ここでは、1番と2番の二つの問題があります。絵を見ることができます。絵の内容を正しく表す番号を答えてください。英文は二回読みます。では、始めます。

- 1 Tom is taller than Mike. Mike is taller than Akira.
2 Akira is taller than Tom. Mike is taller than Tom.
3 Akira is taller than Mike. Tom is taller than Mike.
4 Tom is taller than Akira. Akira is taller than Mike.

繰り返します。

- 1 Tom is taller than Mike. Mike is taller than Akira.
2 Akira is taller than Tom. Mike is taller than Tom.
3 Akira is taller than Mike. Tom is taller than Mike.
4 Tom is taller than Akira. Akira is taller than Mike.

(ボーズ5秒)

次の番号を答えてください。英文は二回読みます。そのまま、絵を見てください。

- 1 It's nine. There are two pens and three books on the desk.
2 It's nine thirty. There are three pens and four books on the desk.
3 It's nine. There are three pens and four books on the desk.
4 It's nine thirty. There are two pens and three books on the desk.

繰り返します。

- 1 It's nine. There are two pens and three books on the desk.
2 It's nine thirty. There are three pens and four books on the desk.
3 It's nine. There are three pens and four books on the desk.
4 It's nine thirty. There are two pens and three books on the desk.

(ボーズ5秒)

2 次に四角2の問題に入ります。ここでは、1番と2番の二つの問題があります。次のジムとケイタの対話を聞いてください。対話文は二回繰り返します。始めます。

- Jim: Hi, Keita.
Keita: Hi, Jim.
Jim: Keita, my brother Fred came to Japan from America last Saturday.
Keita: Oh, really?
Jim: He likes music very much.
Keita: Oh, me too!
Jim: Do you want to see him?
Keita: Yes.
Jim: OK. Please come to my house tomorrow.
Keita: Thank you.

繰り返します。

- Jim: Hi, Keita.
Keita: Hi, Jim.
Jim: Keita, my brother Fred came to Japan from America last Saturday.
Keita: Oh, really?
Jim: He likes music very much.
Keita: Oh, me too!
Jim: Do you want to see him?
Keita: Yes.
Jim: OK. Please come to my house tomorrow.
Keita: Thank you.

(ボーズ5秒)

3 次に四角3の問題に入ります。ここでは、1番、2番、3番の三つの問題があります。はじめに英語の文章を読みます。その後に質問があります。質問のあと、さらに答える番号を答えてください。英語の文、質問、答えはそれぞれ二回ずつ繰り返します。では1番の問題です。

- Ryoko is eleven years old. Tsuyoshi is thirteen. Mayumi is fifteen.

(ボーズ3秒)

質問をします。

Who is the oldest of the three?

(ボーズ3秒)

答えを言います。

- 1 Ryoko is.
2 Tsuyoshi is.
3 Mayumi is.
4 Ryoko and Mayumi are.

(ボーズ3秒)

繰り返します。

- Ryoko is eleven years old. Tsuyoshi is thirteen. Mayumi is fifteen.

(ボーズ3秒)

質問をします。

Who is the oldest of the three?

(ボーズ3秒)

答えを言います。

- 1 Ryoko is.
2 Tsuyoshi is.
3 Mayumi is.
4 Ryoko and Mayumi are.

(ボーズ5秒)

次に2番の問題に入ります。ここでは質問が(1)、(2)の二つあります。では、英文を読みます。

I have a friend. His name is Takuya. He likes running. He runs in the park every morning.

(ボーズ3秒)

(1) の質問をします。

Does Takuya like running?

(ボーズ3秒)

答えを言います。

- 1 Yes, he does.
2 No, he doesn't.
3 Yes, he is.
4 No, he isn't.

(ボーズ5秒)

(ボーズ3秒)

(2) の質問をします。

Where does Takuya run every morning?

(ボーズ3秒)

答えを言います。

- 1 Yes, he does.
- 2 No, he doesn't.
- 3 Yes, he is.
- 4 No, he isn't.

(ボーズ3秒)

繰り返します。

I have a friend. His name is Takuya. He likes running. He runs in the park every morning.

(ボーズ3秒)

(1) の質問をします。

Does Takuya like running?

(ボーズ3秒)

答えを言います。

- 1 Yes, he does.
- 2 No, he doesn't.
- 3 Yes, he is.
- 4 No, he isn't.

(ボーズ3秒)

(2) の質問をします。

Where does Takuya run every morning?

(ボーズ3秒)

答えを言います。

- 1 Yes, he does.
- 2 No, he doesn't.
- 3 Yes, he is.
- 4 No, he isn't.

(ボーズ3秒)

次は3番の問題です。ここででも質問が(1), (2)の二つあります。

では英文を読みます。
Last Sunday Yoshio went to school to play tennis. He played with his friends. He enjoyed it very much. He will play tennis next Sunday too.

(ボーズ3秒)

(1) の質問をします。

Did Yoshio play tennis in the park?

(ボーズ3秒)

これまで聞き取りの問題を終わります。続いて次の問題に進んでください。

答えを言います。

(2) の質問をします。

- 1 Yes, he does.
- 2 No, he doesn't.
- 3 Yes, he did.
- 4 No, he didn't.

(ボーズ3秒)

When will Yoshio play tennis next?

(ボーズ3秒)

答えを言います。

- 1 Last Sunday.
- 2 Next Sunday.
- 3 At school.
- 4 With his friends.

(ボーズ3秒)

繰り返します。

Last Sunday Yoshio went to school to play tennis. He played with his friends. He enjoyed it very much. He will play tennis next Sunday too.

(ボーズ3秒)

(1) の質問をします。

Did Yoshio play tennis in the park?

(ボーズ3秒)

答えを言います。

- 1 Yes, he does.
- 2 No, he doesn't.
- 3 Yes, he did.
- 4 No, he didn't.

(ボーズ3秒)

(2) の質問をします。

When will Yoshio play tennis next?

(ボーズ3秒)

答えを言います。

- 1 Last Sunday.
- 2 Next Sunday.
- 3 At school.
- 4 With his friends.

(ボーズ3秒)

(1) の質問をします。

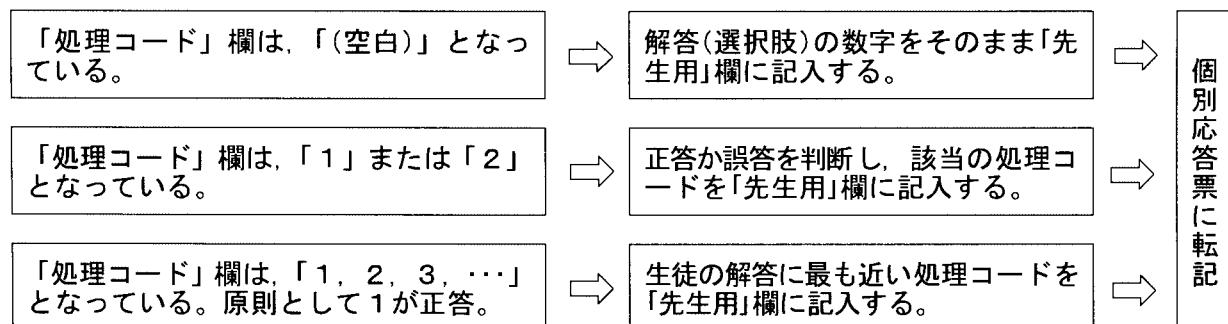
Did Yoshio play tennis in the park?

(ボーズ3秒)

採点基準及び個別応答票記入上の手引き（英語）

[留意事項]

- センターへの報告は、「個別応答票」に処理コードを転記することで行う。
（「配点例」は、学校が独自に集計分析する場合の例示であり、センターへの得点の報告は行わない。）
- 「個別応答票」に転記する処理コードの記入の仕方は、次のとおりである。
 - ・記入ミスを防ぐために、まず解答用紙の「先生用」欄に採点基準に示した処理コードを記入し、次にそれを「個別応答票」に転記する。



平成15年度 中学校第2学年

英語 No. 1

問題番号		通 し 番 号	正 答 (解 答 類 型)	処 理 コ ード	採点上及び転記上の留意点	配 点 例
大 問	中 間					
①	1	①	3		・処理コード1が正答(⑪は除く) ・無答は処理コード8	2
	2		4			
②	1	③	土曜日	1	・ひらがな可	3
	2		誤答	2	・「サタデイ」等は不可	
③	1	⑤	音楽	1	・ひらがな可	3
	2		誤答	2	・「ミュージック」等は不可	
④	1	⑥	3			3
	(1)	⑦	1			3
	(2)	⑧	4			3
	(1)	⑨	2			3
⑤	1	(1) ⑩	2			3
	(2)	⑪	3			3
	2	(1) ⑫	2			3
	(2)	⑬	1			3

問題番号 大問	中間	小問	通し番号	正 答 (解答類型)	処理コード	採点上及び転記上の留意点	配点例
						・処理コード1が正答(11は除く) ・無答は処理コード8	
5	1		⑯	2			3
	2		⑰	5			3
	3		⑯	4			3
	4		⑰	1			3
6	1		⑱	3			2
	2		⑲	4			2
	3		⑳	1			2
	4		㉑	1, 4	1		4
				1, 2 または 2, 4	2		
				1, 3 または 3, 4	3		
				1, 5 または 4, 5	4		
7	1		㉒	3			2
	2		㉓	2			2
	3		㉔	4			2
	4		㉕	3			2
8	1	(1)	㉖	3			2
		(2)	㉗	2			2
		(3)	㉘	1			2
		(4)	㉙	2			2
	2		㉚	4			2
9	1		㉛	was	1		2
				Was	2		
				その他の誤答	3		
	2		㉜	went	1		2
				Went	2		
				その他の誤答	3		

問題番号			通 し 番 号	正 答 (解 答 類 型)	処 理 コ ード	採点上及び転記上の留意点		配 点 例	
大 間	中 間	小 間				・処理コード1が正答(1は除く) ・無答は処理コード8			
9	3		(33)	playing	1			2	
				Playing	2				
				その他の誤答	3				
	4		(34)	better	1			2	
				Better	2				
				その他の誤答	3				
10	1		(35)	4 1 3 2	1			2	
				誤答	2				
	2		(36)	2 4 3 1	1			2	
				誤答	2				
	3		(37)	3 1 4 2	1			2	
				誤答	2				
11			(38)	正答 (例) I like summer. It's hot in summer. We can enjoy swimming.	1	*三文以上書いてあり、文章の内 容のつながりがよいもの		9	
				正答 (例) I like winter. I like <u>snowboarding</u> . I can enjoy <u>snowboarding</u> <u>on</u> winter.	2	*三文以上書いてあり、未習語等 のつづりの誤りや前置詞の誤りな どはあるが、文章の内容が理解で きるもの			
				誤答 (例) I like <u>summer</u> . I like <u>fall</u> . I like <u>winter</u> .	3	*三文以上書いてあるが、羅列的 で話題がしほれていのもの			
				誤答 (例) I like <u>summer</u> . I love <u>summer</u> . My favorite season is <u>summer</u> .	4	*三文以上書いてあるが、ほぼ同 一の内容を反復しているもの			
				誤答 (例) I like <u>sumer</u> . I can swim in <u>sumer</u> . Swim is good <u>sports</u> .	5	*三文以上書いてあるが、単語の つづりや文法事項の誤りが多く、 文章の内容が理解できないもの			
				その他の誤答	6	*二文以下しか書いていないもの など			

問題番号			応 答	応 答 率			問題番号			応 答	応 答 率				
大 問	中 間	小 問		全 県	A	B	C	大 問	中 間	小 問	全 県	A	B	C	
7	2	②₃	無	2.0	0.8	2.4	2.7	1	③₁	④₃	3	16.8	17.2	14.7	18.9
											無	15.9	15.0	17.5	14.8
			1	10.6	7.8	13.6	9.4				①	54.7	54.4	56.9	52.3
			2	11.8	11.9	14.1	8.9				2	0.8	0.6	1.7	0.0
			3	12.2	10.0	12.8	13.7				3	34.6	35.3	30.7	38.8
	3	④₂₅	④	63.3	69.4	56.7	65.5	2	⑤₃	⑥₄	無	9.8	9.7	10.6	8.9
			無	2.1	0.8	2.8	2.4								
			1	16.4	16.4	19.3	12.9				①	37.6	32.8	36.8	43.1
			2	12.6	12.5	13.6	11.3				2	2.0	3.3	1.5	1.3
			③	47.2	51.7	42.9	48.2				3	50.4	54.2	50.2	46.9
8	4	⑦₄₆	4	20.5	17.8	20.3	23.2	3	⑧₃	⑨₄	無	10.1	9.7	11.5	8.6
			無	3.4	1.7	3.9	4.3								
			7 完 正	26.6	29.4	23.4	27.8				①	15.6	16.7	12.7	19.5
			1	22.4	21.9	22.5	22.6				2	0.2	0.4	0.0	0.0
			2	35.0	34.2	36.6	34.0				3	52.9	51.6	52.9	54.7
	1	⑩₈₉	③	35.3	38.1	32.3	36.4	4	⑪₉	⑫₉	無	31.3	31.3	34.3	25.8
			4	5.6	5.6	5.6	5.7								
			無	1.7	0.3	3.0	1.3				9 完 正	4.7	6.7	4.1	3.5
											①	54.3	60.0	51.3	52.6
			1	8.2	6.1	11.9	5.7				2	43.3	37.5	46.1	45.6
9	2	⑫₉₊	②	74.7	78.3	70.1	76.8	1	⑬₈	⑭₉	無	2.3	2.5	2.6	1.9
			3	8.3	8.1	8.2	8.6								
			4	7.0	6.9	6.7	7.5				①	48.8	48.6	48.8	49.1
			無	1.8	0.6	3.0	1.3				2	48.6	48.9	47.9	49.1
											無	2.6	2.5	3.2	1.9
	3	⑮₉₉	①	28.3	33.9	26.2	25.6	2	⑯₉	⑰₉	①	71.6	75.6	67.7	72.5
			2	30.9	26.9	34.8	29.9				2	26.1	21.9	29.4	25.9
			3	20.3	21.7	18.8	20.8				無	2.3	2.5	2.8	1.6
			4	17.7	16.1	15.8	21.6								
			無	2.8	1.4	4.3	2.2				10 完 正	33.4	37.8	29.9	33.7
10	4	⑱₉₉	②	56.2	56.1	55.6	56.9	3	⑲₉	⑳₉	①	8.1	7.2	7.4	10.0
			3	11.7	11.4	10.6	13.5				②	19.3	18.9	21.4	17.0
			4	13.7	15.8	12.8	12.9				3	5.9	7.8	4.5	5.7
			無	2.3	0.8	4.1	1.6				4	2.3	1.9	2.8	1.9
											5	18.6	22.2	10.2	25.6
	2	⑳₉₉	1	8.9	8.1	12.1	5.7	11	㉑₉	㉒₉	6	19.7	20.0	24.5	13.5
			2	9.6	6.9	10.8	10.8				無	26.2	21.9	29.2	26.4
			3	18.5	17.2	20.6	17.3								
			④	59.6	64.7	52.2	63.9				㉑ 完 正	27.4	37.8	28.8	27.0
			無	3.4	3.1	4.3	2.4								
9	8 完 正			10.6	12.8	8.4	11.1								
	1	③₁	①	66.1	66.9	65.4	66.0				2	1.3	0.8	2.4	0.3

*「応答」の欄の数字は、解答選択肢または採点基準の解答類型に対応しており、正答を○で囲んで示した。

*「応答」の欄の「無」は無答であったことを表す。

*未履修がある問題については、未履修分を除き、解答した生徒数を分母として、正答率、誤答率、無答率の合計が100%となるように換算した。

*大問ごとに示した「完正」は、その大問のすべてに正答した生徒の割合である。

*「応答率」の欄のA、B、Cは、市町村の人口規模別による分類（A-10万人以上、B-3万人以上10万人未満、C-3万人未満）を表す。

*「応答率」に示した割合の数値は、少数第二位を四捨五入しているため、各問（小問）の数値の合計が100にならないこともある。